

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究者および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	公益社団法人自動車技術会2020年度秋季大会学術講演会
演題名	実路試験における小型乗用車のソーク温度とファーストアイドル時間が排出ガスに与える影響
発表者	○瞿 意祺※、賈 昊林※、魏 嘉奇※、Yavuz Akdag(Usak Univ.)、加藤 彰
内容	<p>自動車の排出ガスに含まれる二酸化炭素は地球温暖化の原因となり、またCO、HC、NOxと粒子状物質PM (Particulate matter) は大気汚染の原因となっている。地球温暖化を抑えることと大気環境の改善がいつそう求められており、自動車の排出ガスの規制は年々厳しくなっている。</p> <p>RDE (Real Driving Emissions) 規制に関して、EUにて2017年に施行され、その課題の一つは、実路には市街路、郊外路及び高速路の他に、登坂路や高地など多様な道路環境が存在すること、あわせて地域による交通量の差異による走行車速も大きく異なることである。また走行時の外気温度などもCO2や排出ガスに大きく影響するためモード試験と乖離が生じる。本研究は車載型排出ガス分析装置PEMS (Portable Emissions Measurement System) を用いて、自動車の排出ガスをソーク温度とファーストアイドル時間を変化させ実路走行を行い、外気温度変化とファーストアイドル時間が排出ガスに与える影響について報告する。</p>
関連画像	